



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第106号

ピアソン便り

2022. 9. 30

発行人：福井 洋之（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前 9:30 ~ 午後 4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

「矢嶋楯子、ピアソン邸来訪105年記念上映」の事業内容！

イントロダクション

あなたは使命を持って生きていますか？
いま、なぜ

矢嶋楯子なのかな？

いまだに女性蔑視がなくならない日本で

映画「われ弱ければ

矢嶋楯子伝」が私たち

に伝えるもの

天保に生まれ、明治・大正時代に生きた女性解放運動の先駆者、矢嶋楯子。

三浦綾子著「われ弱ければ 矢嶋楯子伝」を原作に、女性の地位向上に尽くした矢嶋楯子の生涯を映画化するべく、「こそ」とメガホンをとるのは、日本最高齢、90歳の女性映画監督、山田火砂子である。

常盤貴子演じる主人公、楯子は女子学院やキリスト教矯風会を作り、一夫一婦制、婦人参政権、禁酒、廃娼運動、アメリカでの軍縮会議に参加など数多くの功績を残す。著者、三浦綾子が、「もっと早くに、矢嶋楯子を知っていたならば、私の人生が大きく変わっていた」という言葉も残している。これまでに、知的障害児教育の母、石井筆子を描いた、常盤貴子主演「筆子・その愛―天使のピアノ」や、日本初の女性医師、荻野吟子の生涯を描いた、若村麻由美主演「一粒の麦 荻野吟子の生涯」など、明治大正期にかけて活躍した女性達を映画化してきた山田監督。



矢嶋楯子が、盟友ピアソン夫妻の館を訪問したのが、ちょうど105年前の大正6（一九一七）年の9月であった。その頃、北見（当時野付牛町）では、遊郭設置反対運動の真っ最中でもあった。矢嶋楯子は、三日間滞在し病気を押しして三度の講話で「廃娼運動」について聴衆に語りかけた。その事が功を奏したのか、ピアソン夫妻と野付牛町の婦人たちの粘り強い運動が実り、全国でも珍しくこの町には遊郭が設置されることはなかった。反対運動が勝利したのである。

この北見で矢嶋楯子来訪105年記念の年に、ピアソン記念館自主事業としてこの映画を実施できる事に感謝したい。

今年の3月、札幌で試写会の様子を伝える北海道新聞記事

北海道新聞



熊本市の熊本城ホールで舞台あいさつする常盤貴子さん

三浦綾子さん原作 映画「矢嶋楯子伝」完成

札幌で29日試写会 主演・常盤さんら登壇

旭川市出身の作家、故三浦綾子さんの小説が原作の映画「われ弱ければ 矢嶋楯子伝」が完成し、29日午後1時半から札幌市北区的札観サンブラザで完成披露試写会が開かれる。当日は主演の常盤貴子さん、山田火砂子監督が舞台あいさつする。

矢嶋楯子（1863～1925）は熊本県出身。男尊女卑の色濃く明治・大正期に、女子教育や公娼制度廃止運動などに尽力し、女子学院（東京）の初代院長や日本キリスト教婦人矯風会初代会頭を務めた。89歳の山田監督は女性監督としては現役最高齢で、楯山管内せたな町で診療所を開いた日本初の女性医師を描いた映画「一粒の麦 荻野吟子の生涯」など社会派作品に定評がある。

8日、熊本市で初の完成披露試写会が開かれ、常盤さんは「矢嶋楯子のことを知り、みんなに彼女が生まれたかった本心に足を運んでもらいたいと思った」、山田監督は「年老いても勉強を続けた女性の生き方を見習ってほしい」と語った。

札幌での完成披露試写会は前売り券1200円（当日券はなし）。購入、問い合わせは現代ふろぐくしよん会03・53332・3991へ。道内では3月25日から札幌シネマフロンティアで公開される。

(堀野洋)

第34回文化サロン de ピアソン 「葉月展」終了報告!

会報第104号でお知らせしましたが、ピアノン会にハーブ部会が誕生したのは2015年9月でした。「文化サロン de ピアソン」第8回講座で、増井五夜子講師・小林清美講師を招き、「和ハツカでリースを作ってみよう!」講座がその始まりでした。以来、ピアノン記念館のため、ピアノン会活動ジャンルの一つとして、「ハーブ部会」を設け、各種の講座の実施や、来館者のためのリースの展示、ピアノンの庭に所縁のある木の実や花を使ったグッズの開発など、魅力あるピアノン記念館活動に尽力していただきました。

現在は、長南幸子部会長をはじめ、増井講師、小林講師、花田眞由美講師・渡部恵子講師・斎藤順子講師、補助の河田・神田ピアノン会理事の総勢8名のメンバーで活動していますが、その8名の作品展を、「葉月展」として初めて開催しました。

期間は、8月2日から8月31日までで、ハーブ部会全員の作品出展数は24点、どれも力作でした。展示構成は、ピアノン記念館の常設展示の邪魔にならないように、壁面・テーブルの上・机や椅子の上などと工夫を凝らし、来館者の

目の保養になればとの企画でした。

来館者にはとても評判が良く、「期間限定でなくこのまま展示できるものは展示したままの方がいいのでは?」と、お褒めの言葉もいただきました。

主だった作品をご紹介します。これらは、まだ展示していませんので、ピアノン記念館に足を運んでいただけましたらご覧いただけます。



一階展示室の壁や机の上に展示



二階応接室の壁やテーブルの上に展示



モイストポプリなど小物も展示



「香りを編む」(ハーブ部会の共同制作)

第35回文化サロン de ピアソン 「モイストポプリ作り講習会」終了!

昨年の9月に予定した「モイストポプリ講習会」はコロナ禍での臨時休館により中止になってしまいました。しかし本年は9月14日水曜日に予定通り開催する事ができました。従来からの講習会は週末の土・日実施でしたが、今回初めて平日開催を試みました。結果的には、土日には参加が難しい方で、当記念館講習は初参加の方ばかりの受講でした。今後、年に一度は平日講習会も必要のように思われます。

午前午後と、和気藹々に思い思いの香りをブレンドしたモイストポプリを作りあげました。



受講前、講師の説明を聞く参加者



窓枠工事、予定部分ほぼ終了!

ヴォーリズ設計の当館窓の開閉は、独立式ダブルハンゲ型方式という特殊な形式になっています。記念館として復元する1970(昭和45)年改修工事以来、手付かずであった窓枠修繕を今年実施しています。記念館として51年間開閉してきた窓の一部分では、重りを吊るしているロープが切れ開閉できない状態でした。この修繕工事で開閉ができる状態に復元しました。

【写真左】窓枠を開けると重りが見える。

【写真下】修繕工事の様子。

【写真中】取り出された重りの一種類。



投稿

ピアノン寮にかかわる

いくつかのこと

文責：北原俊之

北見北斗高校

開校一〇〇周年

と学生寮

ピアノン寮のこと

「北斗寮」のこと

北斗高校同窓会報第

二号に掲載された「ピ

アソン寮」を語る記事



北見北斗高等学校 同窓会報 第2号 昭和42年3月12日発行

【編集者よりの訂正】
大正十五年とあるが大正十三年が正。
昭和四年とあるが昭和三年が正。

寄宿舎

創立当時の生徒は北見管内より集っていたが、下宿屋も稀で寮の必要性が痛感されていた。布教のために滞町していた米人宣教師ピアソン氏から宿舍提供の申出あり、ピアソン寮と呼ばれる寮が建ったのは大正十五年、十二畳二間と八畳一間を持ち常時十余名の生徒を収容していた。寮提供の条件はたつた一つ、佐藤初代校長自身が舎監になることであった。ピアソン氏が昭和四年まで滞在し、帰国に際してこの寮を学校に寄贈されぬまま町に帰属してしまい、寮に不自由を感じるようになった。それで寄宿舎建造の声高まり多くの人たちの篤志寄付で、総工費六千円の宿舍は完成した。昭和四年十一月であった。学校一帯が北斗ヶ丘と呼んでいたことから「北斗寮」と名づけられ.....

▼出典

「北見北斗高等学校 同窓会報 第2号」(昭和42年3月12日発行) 3面(・・)▽北斗高 同窓会ホームペー
ジより～2021.09.08 検索△

アイダ夫人の書簡 ミス・マッケンジー宛

寮生との営みや関わる人々の顔が生き生きと伝わる記録と写真

【フィラデルフィア宗教資料館資料】

© PNo.17 File 2 0112～0113

野付牛、北見、北海道、日本
1924年6月28日

親愛なるミス・マッケンジー、写真二枚をそれぞれ小封筒に入れて送ります。きつと写っている方々に対して興味を持っていただけることと思います。

(一)「日が出ているうちに干し草を作りなさい」と書いてある一枚は、ホワイトナー夫妻が写っています。二年前に撮影したもので、私たちが「療養休暇後に米国から」野付牛に戻ってきたばかりのときです。私たちは、ここに写っている私たちが所有のこの「広い」農地が大好きでした。

(二)「二枚目」その後、あの広い農地の大半を売り払って、その土地代金の半分ほどで、この「写真に写っている」高等中学校生徒用寄宿舎を建設しました。写真に写っている大勢の生徒たちは、私

の教える聖書講読会の生徒たちで、英語での講読会は、毎週木曜日にこちら「この時点ではピアソン邸」で行い、日本語での講読会は日曜日に教会で行います。生徒たちとは「紳士協定」を結んでいて、「日曜日に出席しない者は、木曜日に参加できない」ことにしたところ、木曜日の出席者よりも日曜日の参加者が多くなるという結果になっています。この聖書講読会の参加生徒のうち五名が洗礼を受けました。写真の中央にいる帽子なしの男性は、中学校の校長先生で、フリスチャンであり、優れた人格を持った方で、私たちの信頼できる親しい友です。彼は家族とともに、寄宿舎の端の一角に住み込んでくれる予定です。寮父「舎監」も務めてくれます。「彼が生徒の生活全般の面倒をみてくれるとすると」

私たちは、その面での心配心労や事後の対応などを気にせず、諸事を進めることができ、生徒たちに対してフリスチャンの働きだけに専念できるのです。「写真中の」大人四人は先生で、一人を除いてみなフリスチャンです。後方にいるのはここを建てた大工さんです。我が家の飼犬「ジップ」と私のとなりにいる二人は、アイダ人の使用人ですし、一番はじの小柄な日本人は、「おそらく関東大地震の」震災遺児「おとよさん」です。

アイダ・G・ピアソン

▼「ピアソン夫妻書簡・レポート」

集(2014/11/4)△p.146:

© PNo.17 File 2 0112～0113

ミス・マッケンジーへ、ミセス・

ピアノンからの手紙

(次ページへ続く)

瞳ふあっひん・瞳けあ

めがねのよっしー

代表 岩井敏忠

〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目

携帯.090-2693-1919 TEL.0157-57-3664

定休日/毎週木曜日・営業時間/10時～19時

ピアソン寮建築当時の貴重な写真（1924年）



小池創造牧師の遺品中にあつた写真

この写真は、前記書簡写真説明の別カットの写真家かとも推察される。この写真には、三柏、犬が写っていない。すくなくとも同じ頃に撮られた写真であり、人物はほぼ同じか。

【参考事項】

ピアソン夫妻に関わる人物

ミス・マッケンジー
 宣教師

Webサイト

学校法人 北星学園
 歴代宣教師と歴代理事長より



01 ミス・マッケンジーとは

Virginia Margaret Mackenzie

サラ・スミス在任中の最後の頃
 一九二六(昭和元)〜一九二九(昭和四)年に北星女学校で勤務した宣教師。

ヴァージニア・マーガレット・マッケンジーは、札幌のサラ・スミス女史の在任期間が終わりに近い一九二六年から一九二九年まで北星女学校で働きました。出身は

スコットランドで、教育は米国のオレゴン州ポートランドにあるリード大学で受け卒業しました。また、リード大学では、大学院助手としてギリシャ語、ラテン語、英語などの科目を教えるなどの教壇に立つ経験を初めてしました。教育宣教師として日本に派遣され、一九一九年まず最初は下関で数年、次に大阪で働きました。

ミス・マッケンジーは、北星女学校に転任し高校で教えることになりましたが、彼女が最大に関心を持っていたことは、大学レベルの教育課程を構築することであり、この「彼女が計画した」教育課程が「後に」北星学園女子短期大学を生むことになるのです(マッケンジー、1928.7.17, p.1~2)。マッケンジーは、修辞法、Special Composition、文学、英文学史、歌唱、体育の科目を担当しました。彼女の指導によって、すくなくとも一人の北星の学生が、東京の大学三年生として転校する資格試験に合格することに成功したのです(マッケンジー、1928.4.30, p.1~2)。

ると明るさを取り戻すのを見るのは、とても喜ばしいことであることを彼女は語っています(1929.3, p.2)。

北星で教育の仕事を始めると、マッケンジーは、前任の多くの宣教師たちにもよくあったように、なかなか治りづらい健康上の問題に悩まされ仕事に支障をきたすまでになっていました。時には両腕を自由に動かせなくなるほどの皮膚の障害と慢性的な顔のひどいほてりに悩まされました。このような症状が続いていたため、彼女は東京で継続して治療を受けていましたが、担当の医師はこの症状は北海道の寒さと乾燥した気候が関係しているの見立てました。その結果として、彼女は、札幌から山口に転任することに決まりました。「そのことについて」彼女が記しているのは、「こんなに素敵な場所を去らねばならないと考える」と心が痛みました「.....」(1930.1.1)

ヴァージニア・マッケンジーは、在日期间中、教師として、初等科の児童から高等教育の学生まで広範囲の年齢の女子児童・学生の指導にあたりました。在職四〇年のうちの三十四年間を、下関、大阪、札幌、東京の各学校で教育にあたりました。また、このうちの二校では、校長を務めました。マッケン

ンジー女史は、一九四二年に宣教師職を退任し、「その後の」戦時中は伝道本部運営役員の職に就きました。一九四六年再び宣教師の任命を受け、「このとき実際に米国の市民権を得ていて、「正式に」米国人として」再度日本に派遣され、今回は、東京女子大学で教鞭をとりました。ミス・マッケンジーは、在職中には、話をすること、ものを書くこと、仕事をとりしきるなど、並々ならぬ才能の持ち主だと多方面からの評価を受けていました。一九五九年、日本政府から「瑞宝章」(序列四位の勲章)を授与されました。

02 ホワイトナー夫妻とは

サラ・スミスと働いたその他の人々.....H・キャロル・ホワイトナーとキャサリン・E.G. ホワイトナー(夫妻)は、スミス女史とともに北海道で働きました。特に夫妻とともに旭川を拠点に伝道活動を行いました。夫妻は、一九一八〜一九一九会計年度から一九二四年まで北海道に滞在し、一九二四年退任しました。後任として、ゴードン・K・チャップマン夫妻が、福井から転任してきました。この二人は、わずか二年ほど旭川におりましたが、すぐに異動があり北海道を去りました。

▲上記二つの出典は、James E. ALLISON 'March 2009' 『北星論集(社) 第46号』: Missionaries Who Worked with Sarah C.Smith (Part II) ▲

ピアノン記念館自主事業

映画 「われ弱ければ 矢嶋禰子伝」

10/29(土)北見芸術文化ホール (開演①10:30 ②14:00)

前売券販売

- 前売券 一般: 1,200円
- 当日券 一般: 1,500円

◎北見芸術文化ホール
◎北見市民会館
◎北網圏北見文化センター
◎北見ピアノン記念館

オン北海道株式会社、「ほっかいどう遺産 WAON」助成の協力を得て実施

AEON イオン北海道株式会社

各上映前に、山田火砂子監督の舞台挨拶を予定しております。(開場は上映開始30分前を予定)

第37回文化サロン de ピアノン

講習会 ~クリスマスリースを作ってみよう~


◎ 開催日時 : 2022年11月27日(日)午前の部 10時~12時00分(8名)
(予約開始は10月30日から) 午後の部 13時~15時00分(7名)

◎ 開催場所 : ピアソン記念館2階 北見市幸町7丁目4番28号

◎ 講師 : 増井小夜子、ピアノン会ハーブ部会

◎ 参加料 : 1,200円(材料費代)。電話にて予約受付(先着15名で〆切)

◎ 問い合わせ : NPO 法人ピアノン会 (電話 0157-31-1215)



「ニュージージーランドからの便り」第35回



ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏

2022.7.24

冬の地から夏の季節の皆様へ

◆ 厳しい暑さと感染症のぶり返しがあっても、皆様お変わりありませんように。こちらにも罹患者多いです。Tさん宅での集いが叶って何よりです。今は冬、今日はジメジメして寒く、屋内にいます。

◆ 先週は南島と北島南部ウエリントンを中心に洪水で、道路閉鎖や建物被害などありましたが、この地域での最悪天候は避けられました。

◆ 姉サマーフィールド一家の子供や孫たちの休暇中にファミリーの楽しい集いがあり、シドニーからの甥のデイヴィッドが来られたのは特別でした。

◆ 先週の木曜日(7/21)弟のマーレイとシエークスピア・ファーム・パークまで散歩。子羊誕生の季節に出会えました。たくさん生まれていて、天候は厳しくても、驚くほど遅いので、全頭OKでしょう。ここでは羊も牛も戸外で生まれるのが普通です。

◆ 先日、嬉しいことに、北見時代にプリントした全JISの第二水準リストの手引きが見つかりました。日本語と英語による漢字の読

みと意味、語彙などで、それらを再検討し、漢字の書き出しが終わりました。元は篠原先生や皆さん、ESSメンバーと吟味したものでした。今回は全体の半数ほどを選び、適切な利用を考慮して使用頻度の少ないものを除きました。再度、多角的に見て除外分も再検討したいものです。オリジナル唯一のコピーが、古いワードプロセッサの感熱紙なので劣化が進み、全てを再録してありますが、第二水準は3388語あり、大仕事です。

◆ 「北見時代」に翻訳していた蕪村の連歌から幾つか「花守の身は弓矢なき案山子哉」「椿折てきのふの雨をこぼしけり」「細き灯に夜すがら雛の光かな」へ注 英訳を省略。北見の皆様方にどうぞよろしく。グラハム・ハード

2022.8.13
ファンガヌイからの挨拶
◆ プラムの新芽が出る前の枝刈り作業などを行っています。先週水曜日(8/3)、5月以来の南下でした。夜通し冷え込んでも日中は太陽が明るく、離れた所の池は満水です。何羽かのカモをここで見たのは初めてで、写真を撮った時には残念ながら見えませんでした。

◆ 昨日、従兄弟のステイヴと後背地へ行きました。狭い田舎道を

何マイルも走ると、初めての所や子供時代から親しみ深かった所も多く、天候は最高、景色も壮大。生まれたばかりの子羊や咲き初めの春の花が。

◆ ファンガパラオアへ来週戻ります。盛夏の北見の皆様方よろしく。
2022.8.29

春のファンガパラオア

◆ お便りと写真、感謝します。北見教会墓地で(80代の)親友二人の埋葬式が同時に行われたこと、まことにふさわしく思いました。

◆ ファンガヌイで充実した滞在を終えファンガパラオアへ戻りました。林檎や梨の手入れを済ませ、樹の下草刈りなどしたプラムはもう開花しそうです。

◆ パーマストーンノースの旧友マックスを訪ねて楽しい一日でした。彼がボランテアをしている「傷ついた土着の鳥類」たちのリハビリテーション・センターへ案内してくれました。ケレルやカカやベルバードばかりでなく、ニュージージーランド最古の爬虫類で稀少かつ独特な生物トウアタラなども見ました。

◆ ここファンガパラオアは春が進み、木蓮が咲いています。庭の池では睡蓮の葉が目立ち、遠からず咲くでしょう。種芋を買いましたが、土が適切な状態になるのを待っています。今日午後、散歩がてらシエークスピアパークまで親子の羊を見に。もう3週間ほど経ち、成長状態も良



く、白の中に一頭だけ黒色のものもありました。カーパーク用道路に近い水たまりに、生まれたばかりのコガモ4羽を連れた親を見ました。子育てには、衛生的でもない不具合な選択ですが、何とかするでしょう。

◆ 北見の皆様よろしく。
2022.9.15

感謝!

◆ 直近のメール(エリザベス女王逝去への追悼文)と先日無事に配達された郵便物へ注 PC添付不具合により郵送、貴重な宝物の新聞記事や写真、記念の記録記事など感謝です。内容を拾い読みしながら楽しんでいきます。

◆ こちらの新聞はエリザベス女王の死去にまつわる記事が満載です。弔意を表して集まる群衆は、英国の普通の人たちがどれほど敬愛の念を持っているかの指標と言えるでしょう。人々が顔を合わせ、声を聞くと気分も新たに変わります。ここニュージージーランドでも大勢がその死を悼んでいます。先日の郵

送分には、ニュージージーランド・ヘルドが発行した女王への敬意を表する特別号が入っています。
〈注 コロナ禍により相互に郵送日数が未定。〉

◆ 春に向かいながらも空気はまだクールです。庭のプラムの花が咲いています。冷気のせいでミツバチは待機中の模様。池の睡蓮、葉は目立っても花は未だ見えず、です。北見の喜ばしい秋を満喫されますように。グラハム・ハード

編集後記

ご承知のようにピアソン会と映画制作会社「現代ぶろくしょん」との共催で映画会を実施いたします。その準備で7月・8月は大忙しでした。後は少しでも多くの皆様に映画を見ていただけるよう努力あるのみです。
8月にピアソン記念館窓枠修繕工事を実施しました。ヴォーリズ建築の魅力の一つでもある、上下開閉式窓のバランス取り重りロープの修繕工事でした。開けてびっくり、ダブルの重りがついていました。

ハープ部会の「葉月展」と「モイストボアリ作り講座」が終了しました。講座は初めての平日開催としての実施でした。いよいよ、秋になります。
(理事兼事務局 伊藤 悟)

賛助会員・団体会員・運営会員募集!